

MWCに見るスマートフォン最新動向

アプリストア競争で急拡大へ

「Mobile World Congress」では、Androidを中心に各社が競い合ってスマートフォンを出展した。さらに、アプリを含むプラットフォームの「垂直統合」の動きも出始めている。

主要プレイヤーの動き

巻き返し狙うMS、ノキア

文 山根康宏(携帯電話研究家)

2月15～18日、GSM Associationが開催する世界最大のモバイル関連イベント「Mobile World Congress 2010」(MWC)がスペイン・バルセロナで開催された。世界各国の関連企業・団体約1300社が展示やプレスカンファレンスを行い、新製品や業界の最新動向などを把握できる大きなイベントであった。

今回のトレンドの1つが、スマートフォン関連の展示だ。米アップルの

出展はなく、むしろ各社がどのようにアップルのエコシステムに対抗していくのかという話題が大きく目立っていた。

米ガートナーの調査によると、スマートフォンOSのマーケットシェアはSymbianが50%を切る一方、BlackBerryのRIMとiPhoneが勢いを増している。またWindows Mobileがシェアを落とし、Androidは急速に伸びるなど、ここ1年で大

きな動きが見られる(図表)。そこでMWCの展示から、各OS/ベンダーのスマートフォンの最新動向を見てみよう。

Androidの製品揃う

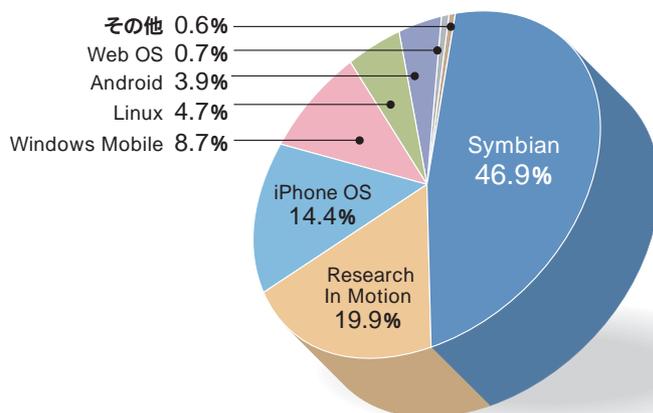
MWC会場で目立っていたのが、Android陣営の展示だ。多数のハードウェアが展示されていたのはもちろんのこと、グーグルのエリック・シュミットCEOがMWCのキーノートスピーチに初めて登壇した。

シュミットCEOは「モバイル・ファースト(まずモバイル)」を強調し、今後モバイル分野に注力していくことを強くアピールした。また、グーグルはモバイル業界の敵ではなく協力し合う存在であると明言。これはグーグルに対して疑念を持っているモバイル業界関係者に対するメッセージと受け取れるが、グーグルにとっても通信事業者のインフラなくして事業の成長が見込めないということの表れでもあろう。

シュミットCEOによると、Android端末の出荷台数は1日当たり6万台に達しており、製品の数もこの1年で急増しているとのこと。実際、昨年のMWCではAndroid端末の展示は1機種程度だったが、今年は会場内で数十以上の製品が展示されていた。

端末ベンダーの中でAndroid端末の新製品を中心に展示を行ってい

図表 2009年 スマートフォン OS別マーケットシェア



出典: Gartner